

講義科目 : 歴史学	単位数 : 2
担当 : 望月 秀人	学習形態 : 選択科目

講義の内容・方法および到達目標

西洋近代は明治時代以来、長らく日本にとっては追いつくべき模範でしたが、現在ではそうした西洋中心主義は批判され、むしろ他地域と対等に比較すべき一対象となっています。本講義ではそうした状況を踏まえつつ、西洋近代社会の成り立ちと展開を概説的に理解し、そのうえで日本にとって何を見習うべきであり、何を見習うべきでないのかについて考えることを目指します。

授業計画

- 第1回 ガイダンス：シラバスの確認と歴史学の意義について
- 第2回 大航海時代と世界の一体化
- 第3回 「宗教戦争」と「世俗化」
- 第4回 封建制から「絶対王政」へ
- 第5回 「絶対王政」の意義と限界
- 第6回 新しい社交の場と「世論」
- 第7回 「市民革命」と近代国家
- 第8回 ナショナリズムと国境問題
- 第9回 工業化とその影響
- 第10回 第一次世界大戦の衝撃
- 第11回 世界恐慌の時代
- 第12回 ファシズムの脅威
- 第13回 第二次世界大戦
- 第14回 冷戦の時代
- 第15回 グローバル化とその課題

教材・テキスト・参考文献等

テキストは特に定めません。毎回のレジュメに掲載されている出典を参考にして下さい。ただ、山川出版社の高校世界史教科書程度のものであれば持っている方が良いでしょう。

成績評価方法

定期試験60%、レポート40%で判断します。試験は紙媒体持ち込み可の論述試験で、講義内容に即して回答するものとします。レポートについては講義の際に説明します。5回を超える欠席はその時点で単位を失うものとします。オンライン試験の場合は別途指示します。

その他

言うまでもなく、講義中の私語や徘徊は原則禁止とします。学生としてふさわしい受講態度をとるようにして下さい。また、時事ネタ等を通じて、社会の課題に敏感になるようにして下さい。オンラインの場合にも基本的にこれに準じます。